

## 学生が拓き、つなげる八王子と世界 産学官連携「八王子キズナプログラム」の策定と実施

Students Pave and Connect Hachioji with the World: Formulation and Implementation of the 'Hachioji Kizuna Program' for Industry-Academia-Government Collaboration

創価大学 国際教養学部 杉本ゼミ

盛満拓也 駒坂すみれ 半澤玲奈

教員氏名：杉本一郎、創価大学国際教養学部

キーワード：学生主体、短期研修プログラム、産学官連携、SDGs

### 1. 問題の所在

21 の大学を有する八王子市には、短期・長期の留学を経験した多くの日本人学生が存在している。各大学では海外大学との協定に基づき交換留学や、短期研修等の学生派遣と外国人留学生の受け入れを積極的に推進しており、市内海外大学との協定数が多い上位 6 大学（表 1）だけでも相当な数であり、留学をした学生が培った経験値は、八王子市が誇るべき無形の財産であると言える。

表 1：八王子市にある協定大学上位校数

	大学名	協定校数	国・地域
1	法政大学	265	49 カ国地域
2	創価大学	248	66 カ国地域
3	中央大学	212	41 カ国地域
4	桜美林大学	185	37 カ国地域
5	帝京大学	98	32 カ国地域
6	東京都立大学	91	30 カ国地域

各大学 HP をもとに作成

しかしながら貴重な留学を経験した多くの学生にとって、帰国後、卒業するまで留学期に培った語学力や、異文化交流の経験を活かす機会は、思いのほか少なく、語学学習や国際交流に対して好意的な意識は持つが、実際に語学勉強や動機づけを長期的に維持し続けていくことは難しい傾向があるという調査結果がある。（小林千穂, 2021）ましてや留学によって得た知見や学びを、大学のある八王子市に貢献、還元していこうという発想を描くこと自体が難しく、一般的に「国際化」と「地域連携・地域貢献」は別物の扱いとなってしまっているのが現状である。第 2 期 多文化共生推進プラン（八王子市、2023）など国際交流・多文化共生の推進を掲げる八王子市にとって、潜在的に存在している人材が活かされないことは

勿体ない。このギャップを埋める案として、私たちは留学経験者が主体となり産学官連携を促しながら、海外から学生を八王子に呼び込み実施する、英語を用いた短期研修「八王子キズナプログラム」を提案する。

### 2. 構想の背景

本構想の着想は、マレーシアのマラヤ大学が実施している「サマープログラム」への参加にあった。夏休みの 3 週間を利用し、英語学習、文化体験、現地大学教授の講義など多角的に学べるプログラムであるが、一番の特徴は、学生が策定の段階ではホストとして受け入れの体制を作り、研修期間中はバディとして共同生活をしながら全ての行程に関わり、プロジェクトの運営全般をサポートし、共に学びを深めてくれる点にあった。

日本人参加者にとっても「サマープログラム」でのバディとの生活はとても楽しく、多くの学びがある日々であったが、迎え入れてくれたバディにとっても国籍の違う同世代の学生と友情を育む過程は、国際性やリーダーシップを培う自身の大きな成長の機会となると語ってくれた。八王子市での取り組みも、ホスト（バディ）として迎え入れる日本人学生にとって大きな成長機会になると確信している。また、「サマープログラム」では、日本人参加者が現地学生やマレーシアという国と絆を築くことができたように、八王子市でも学生同士の絆だけでなく、海外の学生と八王子、日本人学生と八王子の企業、大学、市行政機関との絆を築き、深めるという意味で「八王子キズナプログラム」を提案する。

### 3. 内容与方法

マレーシアで実施された研修は大学単位で運営されているが、本構想では、「八王子キズナプログラム」を「大学コンソ

「コンソーシアム八王子」の新規、事業として設置し、加盟大学や、策定と実施にあたり八王子市行政機関、地元企業、NPO 等との連携・協力をしながら進めていくことを提案する。

その運営体制は以下のように進める。まず、「大学コンソーシアム八王子」内に「八王子キズナプログラム」事務室を設置する。事務室は八王子市内の大学に八王子サマープログラムの趣旨に同意し、長期的に関われる学生実行委員の募集と選抜、大学の国際課を通じての海外協定校への本プログラムの広報、本事業の運営に伴う経理を担当する。一方、本事業に携わる実行委員会は、短期研修プログラムの内容、行程を協議のうえ決定し、その運営に必要となる八王子市行政機関、地元企業、NPO、大学教員など、産学官連携を、学生実行委員会が軸となり、各種調整を行っていく。またホスト（バディ）として海外からの参加学生に対応していくため研修内容に関して、週1コマのペースで事前学習を行っていく。実行委員会の策定・実施までのスケジュールは表2の通りである。

表2：八王子キズナプログラム実行委員会のスケジュール

月	内容
12月	「八王子キズナプログラム」実行委員の募集
2-3月	実行委員会の発足とプログラム内容の策定 各種関連機関との連携 事前学習プログラムの決定
4-5月	海外大学への参加学生の募集 参加費用の入金管理
4-7月	事前学習学会の実施 (研修先の分野に関する学び)
7-8月	学生の来日と、研修プログラムの実施
9月	成果報告会 会計報告 次年度に向けての改善点の明確化と引き継ぎ
12月	次年度の実行委員の募集

研修プログラムの内容については、八王子のみならず世界的にも関心の高いSDGsに取り組んでいる地元企業の視察、市役所、NPO 団体、大学研究室の現場を訪問し、講義の受講、質疑応答、ディスカッション等を英語で行なっていく。研修プログラムの中でバディとして参加する日本人実行委員、外国人学生参加者、組織の当事者が、現在抱えている問題や、課題の解決案を考え抜き、発表する機会があれば双方にとって有益な機会となることが期待

される。また「八王子まつり」等の行事に参加ができれば八王子市民との触れ合いや、息吹も感じることができだろう。

このプログラムの主役はプログラムの策定、実施に主体的に関わる実行委員の学生であるため、彼らの貢献に対して、「大学コンソーシアム八王子」会長が修了証・感謝状を発行し、加盟大学が「国際ボランティア科目」等で単位として認定する仕組みを整備できれば、より多くの学生が持続的に参加するインセンティブとなるだろう。

#### 4. 期待される成果

本構想の実現は、多くのメリットをもたらすことができる。**第1**に、これまで国際志向であった学生が八王子に対する帰属意識や愛着を強く持つようになる。**第2**に「大学コンソーシアム八王子」のもと、国内外の学生が初めて連携する機会を持つことが期待できる。これは、学生が市の行政、地元企業、さらには他大学の教員や職員との連携を深める大きな機会となる。**第3**に八王子の企業も、語学力やリーダーシップを持つ学生との繋がりを築くことで、未来の採用や事業展開の契機となる。**第4**に八王子市は、先進的な教育の場としてのブランドを国内外に向けて強化でき、産学官連携の新しいモデルを提供することとなる。

#### 5. おわりに

学生が主体的に八王子の産学官連携を推進しながら策定・実施をしていく「八王子キズナプログラム」は、八王子が世界とつながる貴重な機会を提供していくであろう。学生の活力を通じて地域連携と国際化を進めるこの試みが、学生同士、海外の学生と八王子、日本人学生と八王子の企業、大学、市行政機関との絆を幾重にも結びながら、広がっていく未来を拓いていきたい。

#### 参考文献

小林千穂. (2021)「短期留学の英語学習モチベーションに対する長期的影響」. アメリカス研究 第26号 95-124頁.

八王子市(2023)「第2期 多文化共生推進プラン」令和5年度～12年度(2023～2030年度)